

2021 年度環境経営レポート

活動期間：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日



有限会社 プロップ

発行日：2022 年 8 月 4 日

改定日：2022 年 10 月 6 日

目次

1. 会社概要	… 3
2. 対象範囲	… 7
3. 環境経営方針	… 8
4. 環境経営目標	… 9
5. 環境経営計画	…10
6. SDGs 目標と具体的施策目標	…11
7. 環境経営目標の実績	…12
8. 環境経営計画と SDGs 目標の取組結果と評価	…15
9. 次年度の取組内容	…17
10. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	…18
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	…19

1. 会社概要

(1) 名称および代表者名

有限会社 プロップ
代表取締役社長 鈴木 一三

(2) 所在地

本社／工場 〒459-8001
愛知県名古屋市緑区大高町字川添9番地
TEL : 052-618-5777 / FAX : 052-618-5778

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役社長 鈴木 一三 TEL : 052-618-5777
担当者 奥村 彩
E-Mail info@prop-dental.co.jp

(4) 事業内容

貴金属リサイクル
産業廃棄物収集運搬及び中間処理
特別管理産業廃棄物収集運搬
歯科材料製造販売・仕入販売

(5) 事業の規模

設立年月日 1994年10月5日
資本金 700万円
売上高 1億7300万円 (2022/3月期)

規模	本社／工場
従業員	7名
床面積 (延べ)	415.19㎡

(6) 事業年度

4月1日～3月31日

(7) 許可の内容及び許可品目

事業区分	許可先	許可番号	許可年月日	有効年月日
産業廃棄物処分 中間処分（破碎）	名古屋市	06420025785	2018年11月1日	2023年10月31日
	許可品目			
	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を除く）、金属くず、 ガラスくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を除く） 上記3品目は、水銀使用製品産業廃棄物を除く。			

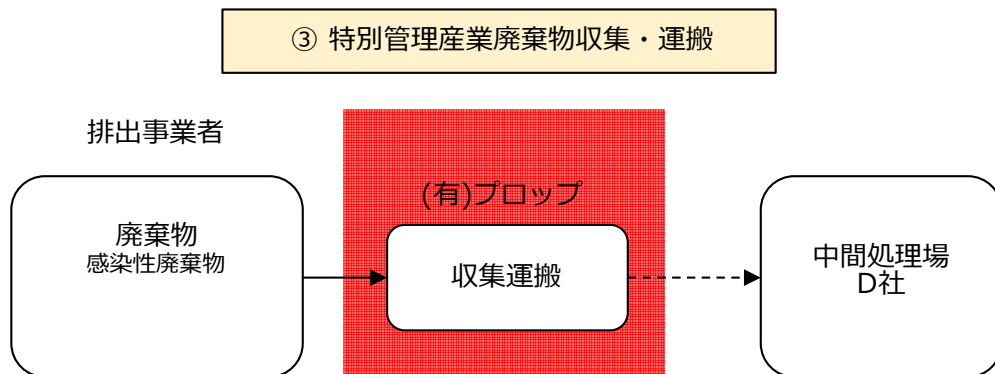
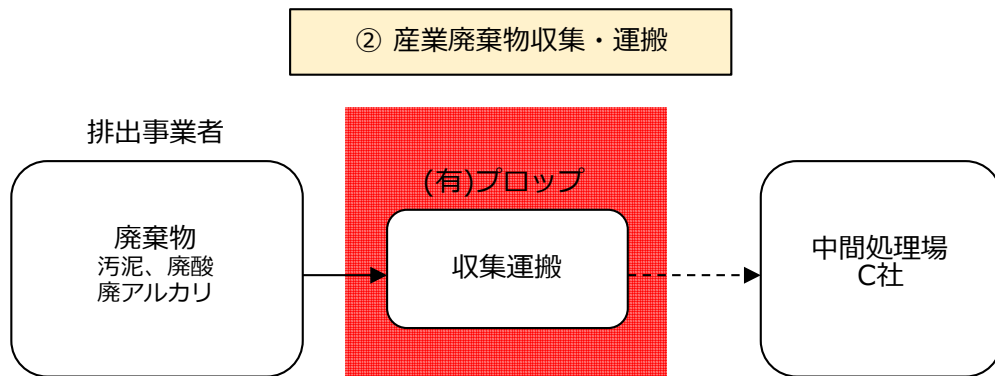
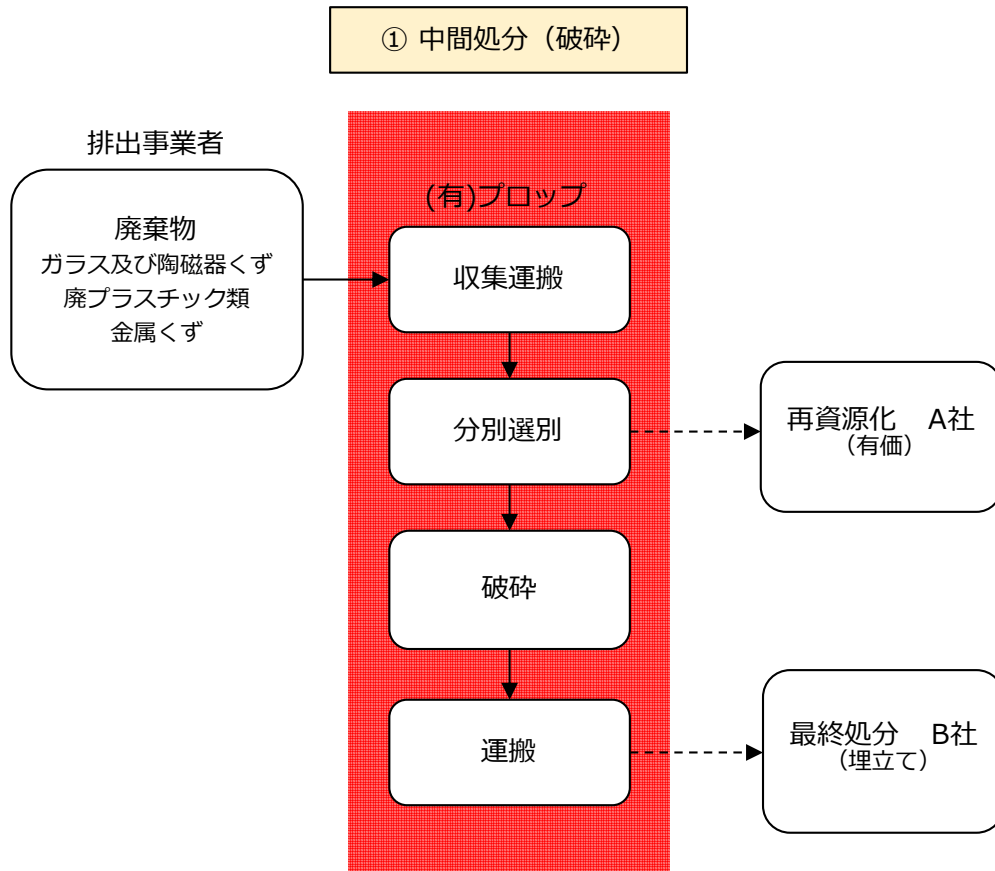
事業区分	許可先	許可番号	許可年月日	有効年月日
産業廃棄物収集・運搬	愛知県	02300025785	2022年6月2日	2027年3月16日
	岐阜県	02100025785	2022年4月12日	2027年2月27日
	許可品目			
	汚泥（水銀含有ばいじん等を除く）、廃酸（水銀含有ばいじん等を除く）、 廃アルカリ（水銀含有ばいじん等を除く）、廃プラスチック類 （自動車等破碎物及び石綿含有産業廃棄物を除く）、金属くず（自動車 等破碎物を除く）、ガラスくず・コンクリートくず（工作物の新築、改 築又は除去に伴って生じたものを除く）及び陶磁器くず（自動車等破碎 物及び石綿含有産業廃棄物を除く） 上記6品目は、水銀使用製品産業廃棄物を除く。			

事業区分	許可先	許可番号	許可年月日	有効年月日
特別管理産業廃棄物 収集・運搬	愛知県	02350025785	2022年6月2日	2027年3月16日
	岐阜県	02150025785	2022年4月12日	2027年2月27日
	許可品目			
感染性産業廃棄物				

注) 積替え、保管の許可はありません。

破碎機	1台
設置場所	愛知県名古屋市緑区大高町字川添9番地
処理方式	破碎
処理能力	廃プラスチック（石綿含有産業廃棄物を除く） 1.37 t/日（8時間） 金属くず 3.29 t/日（8時間） ガラスくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を除く） 7.26 t/日（8時間）

(8) 処理工程



(9) 収集運搬車両の種類と台数

2tトラック 1台
 バン 2台

(10) 処理実績

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
中間処理量	t	80.75	75.13	65.98	67.06
収集運搬量 (うち特別管理廃棄物)	t	100.15 (2.08)	93.31 (2.06)	80.45 (1.97)	80.23 (1.60)

(11) 過去4年間の実績

項目	単位	実績			
		2018年度 (2018.4-3)	2019年度 (2019.4-3)	2020年度 (2020.4-3)	2021年度 (2021.4-3)
電気使用量	kWh	15,812	15,548	15,769	17,058
液化石油 ガス使用量	kg	136	125	110	123
軽油使用量	ℓ	7,346	6,808	6,698	6,262
二酸化炭素 排出量合計	kg- CO ₂	27,876	26,295	24,331	23,791
受託産業廃棄物の リサイクル量割合	%	34	14	30	26
一般廃棄物排出量	k g	1,293	702	686	756
一般廃棄物 リサイクル量割合	%	44	46	51	42
上水使用量	m ³	180	137	127	125
化学物質使用量	kg	421	332	558	450
製品包装発送梱包の簡易化		推進	推進	推進	推進

注1) 電力使用量から二酸化炭素への換算は、中部電力の数値0.426kg-CO₂ (平成28年度) を使用

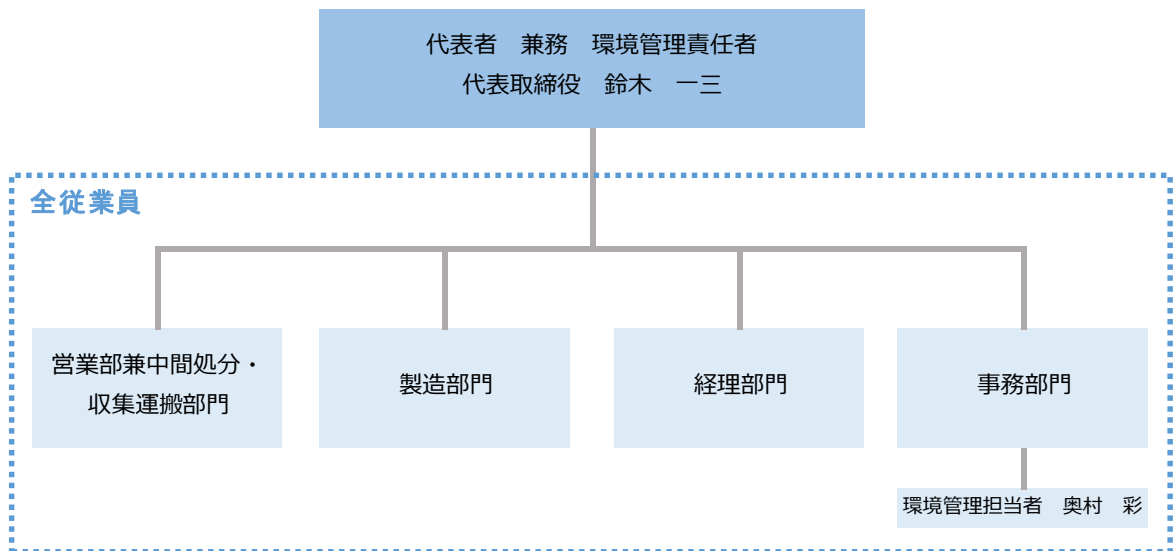
2. 対象範囲

(1) **サイト** 全社、全事業を対象として取組みます。

(2) 環境活動レポートの対象期間

- ① 当期の活動期間： 2021年4月1日～2022年3月31日
- ② 次期の活動期間： 2022年4月1日～2023年3月31日
- ③ 次期の活動活動レポートの作成： 2023年7月

(3) 推進組織



(4) 役割と責任・権限

	役割・責任・権限
代表者 環境管理責任者 (兼務)	<ul style="list-style-type: none">・ 環境経営システムに関する統括責任・ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知・ 環境経営目標・環境経営計画の承認・ 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価を実施・ 代表者による全体の評価と見直しを実施・ 環境経営レポートの承認
全従業員	<ul style="list-style-type: none">・ 環境経営方針、環境経営目標を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚・ 自主的、積極的に環境経営システムへ参加・ 手順書の作成及び手順書による実施・ 環境経営計画の実施及び達成状況の報告・ 環境経営目標の実績集計など環境管理責任者の補佐

3. 環境経営方針

有限会社プロップ 環境経営方針

<基本理念>

有限会社プロップは、歯科業界における、貴金属リサイクル・産業廃棄物処理・歯科材料製造仕入販売の3事業を通じて、地球の限り有る資源を守ること、産業廃棄物の減量化・再資源化の徹底、人に優しく、環境に優しい医療機器の販売を最重要課題としています。環境経営システムの構築・運用を通じて、全社員一丸となって積極的に環境保全活動及び環境経営に努め、環境負荷低減を継続的に推進します。

<基本方針>

1. 当社に適用される法規制、当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開します。
 - ① 省エネルギーに取り組み二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 受託産業廃棄物における再利用・再資源化に努めます。
 - ③ 生産活動で生じる廃棄物の削減・再資源化の推進に努めます。
 - ④ 節水行動や作業改善により水使用量の削減に努めます。
 - ⑤ 化学物質の適正管理に努めます。
 - ⑥ 当社が製造・販売・提供する製品の環境配慮に努めます。

制定日：2013年7月22日

改定日：2020年8月20日

有限会社プロップ
代表取締役

鈴木 一三

4. 環境経営目標

2019 年度を基準値として下記の削減目標を設定します。

環境目標	単位	基準値 2019年度 (2019.4-3)	目標		
			2020年度 (2020.4-3)	2021年度 (2021.4-3)	2022年度 (2022.4-3)
電気使用量の削減	kWh	15,548	1%削減 (15,393)	2%削減 (15,237)	3%削減 (15,082)
液化石油ガス使用量の削減	kg	125	1%削減 (124)	2%削減 (123)	3%削減 (121)
軽油使用量の削減	ℓ	6,808	1%削減 (6,740)	2%削減 (6,672)	3%削減 (6,604)
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	26,295	1%削減 (26,032)	2%削減 (25,769)	3%削減 (25,506)
受託産業廃棄物における再資源化の推進	%	リサイクル量割合 14	1%増加 15	2%増加 16	3%増加 17
一般廃棄物排出量の削減	kg	一般廃棄物量 702	1%削減 (695)	2%削減 (688)	3%削減 (681)
一般廃棄物再資源化の推進	%	リサイクル量割合 46	1%増加 47	2%増加 48	3%増加 49
水使用量の削減	m ³	上水使用量 137	1%削減 (136)	2%削減 (134)	3%削減 (133)
化学物質の適正管理	kg	化学物質使用量 332	適正管理	適正管理	適正管理
製品包装発送梱包の簡易化		推進	推進	推進	推進

注 1) 電力使用量から二酸化炭素への換算は、中部電力の数値 0.426kg-CO₂ (平成 28 年度) を使用

注 2) 化学物質は、届出対象の 1 t 未満と、年間取扱量が少なく適正管理を目標としています。

5. 環境経営計画（2021年度）

（1）電力・LPG・軽油の使用量を削減し、二酸化炭素排出量2%削減をする。

- ・事務室、工場などの照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯する
- ・空調の適温化（冷房28℃程度、暖房20℃程度）を徹底する
- ・空調機のフィルターの定期的な清掃・交換など、適正に管理する
- ・空気圧縮機は、必要十分なライン圧力に低圧化する
- ・LED照明を採用する（中・長期目標）
- ・運搬車両の適正な車輛整備など、エコドライブ10を心がけた運転
- ・各使用量の実績管理を行い、その推移を記録・分析する

（2）受託した産業廃棄物のリサイクル量を2%増加する。

- ・排出事業者への分別・リサイクルの指導の強化を図る
- ・受託した廃プラスチック類を分別選別し、再資源化に努める

（3）一般廃棄物排出量を2%削減する。

- ・社内LAN、データベースなどの利用による文書の電子化に取り組む
- ・詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、製品等の長期使用を進める
- ・帳票など紙類の削減について見直しを行う
- ・3S（整理・整頓・清掃）活動の実施
- ・資料や書類の簡素化に努める

（4）一般廃棄物のリサイクル量を2%増加する。

- ・発生したごみは可能な限り、圧縮などを行い、減容する
- ・紙、ダンボール等の資源ごみはリサイクルセンターへ持ち込む

（5）水使用量を2%削減する。

- ・水道配管からの漏水を定期的に点検する
- ・手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する

（6）化学物質の適正管理に努める。

- ・有害性の化学物質について、その種類、使用量、保管量、使用方法、使用場所、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理する
- ・有害物質のタンク、パイプなどの保守・点検を定期的に行うなど適正管理に努める

（7）当社が生産・販売・提供する製品の環境配慮に努める。

- ・製品ラベルを読み込むと添付文書が閲覧できるよう電子化する

（8）情報提供

- ・SDGsの目標やターゲットを意識して、経営計画を策定する(中・長期目標)
- ・産廃情報ネットの産廃処理業者検索「さんばいくん」にて情報の公表をし、定期更新を行う
- ・更新期日チェックシートを用いて、更新し忘れを防ぐ

6. SDGs 目標と具体的施策目標（2021年度）



目標3 [保健]:

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

- ・安全健康的な職場環境の維持。コロナウイルス対策の実施。
- ・労働災害事故、交通事故の撲滅。災害事故等に備える教育。
- ・昼休憩にパワーナップ推奨



目標6 [水・衛生]:

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

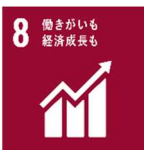
- ・エコアクション21環境経営システムの完全実施
- ・節水活動の推進



目標7 [エネルギー]:

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

- ・エコアクション21環境経営システムの完全実施
- ・エネルギー使用量削減、二酸化炭素排出量の削減



目標8 [経済成長と雇用]:

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

- ・エコアクション21環境経営システムの完全実施
- ・産休、育休と取りやすい職場に。社内環境の整備（ベビーサークルの設置）



目標12 [持続可能な消費と生産]:

持続可能な消費生産形態を確保する

- ・オフィスで使っている使い捨てのプラスチック製品の代替品を探そう
- ・紙、プラスチック、アルミをリサイクル



目標13 [気候変動]:

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

- ・使用していない部屋のこまめな消灯
- ・照明はLED電球に取り替え



目標14 [海洋資源]:

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- ・エコアクション21環境経営システムの完全実施
- ・海洋汚染防止を意識してポリ袋の使用、廃棄を抑制



目標15 [陸上資源]:

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- ・書類の電子化
- ・廃棄物排出量の削減。リサイクル再生活用の推進。

7. 環境経営目標の実績

環境経営目標及び環境経営計画に従って全社で今期4月から3月までの12ヶ月間、運用・実施した結果は、下表のとおりです。

環境目標	単位	基準値 2019年度 (2019.4-3)	2021年度の活動目標・結果 (2021.4-2022.3)			
			目標	実績	達成度	評価
電気使用量の削減	kWh	15,548	2%削減 (15,237)	10%増加 (17,058)	89%	×
液化石油ガス使用量の削減	kg	125	2%削減 (123)	2%削減 (123)	100%	○
軽油使用量の削減	ℓ	6,808	2%削減 (6,672)	8%削減 (6,262)	107%	○
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	26,295	2%削減 (25,769)	10%削減 (23,791)	108%	○
受託産業廃棄物における再資源化の推進	%	リサイクル量割合 14	2%増加 (16)	12%増加 (26)	163%	◎
一般廃棄物排出量の削減	kg	一般廃棄物量 702	2%削減 (688)	8%増加 (756)	91%	△
一般廃棄物再資源化の推進	%	リサイクル量割合 46	2%増加 (48)	2%増加 (48)	100%	○
水使用量の削減	m ³	上水使用量 137	2%削減 (134)	9%削減 (125)	107%	○
化学物質の適正管理	kg	化学物質使用量 332	適正管理	適正管理 450	-	-
製品包装発送梱包の簡易化		推進	推進	推進	-	-

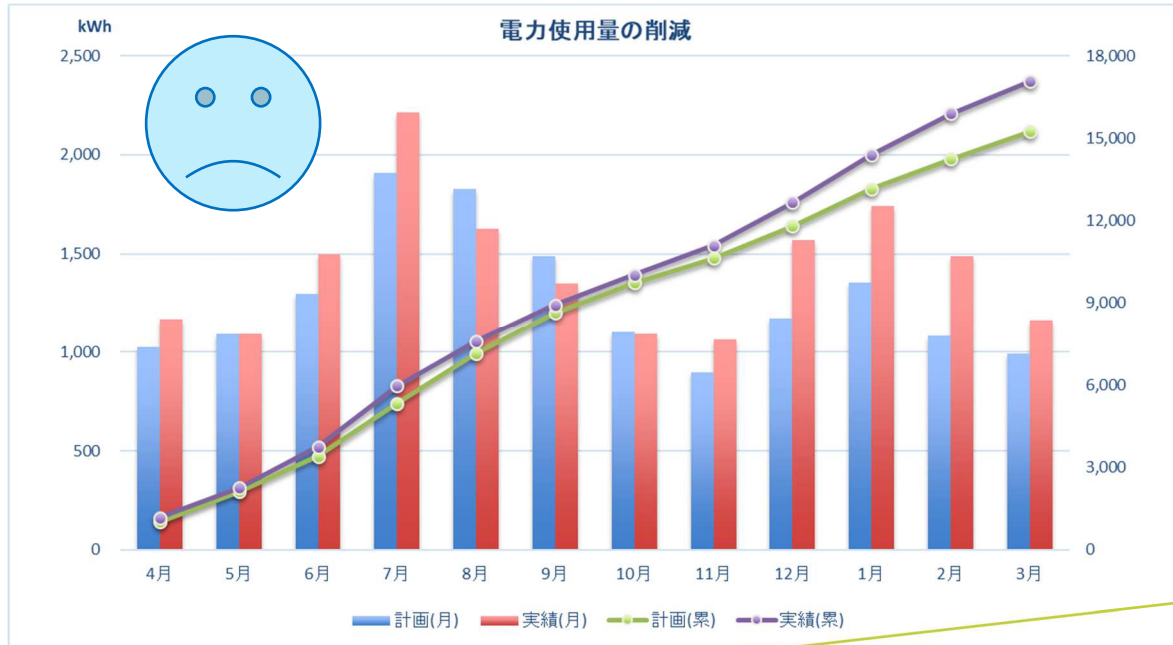
注 1) 電力使用量から二酸化炭素への換算は、中部電力の数値 0.426kg-CO₂ を使用

注 2) 【評価基準】達成度（削減目標 = 目標/実績、増加目標 = 実績/目標）により評価しています。

- ◎：大幅に目標をクリアした。 120%以上
- ：目標をクリアした。 100%以上～120%未満
- △：ほぼ目標通り。 90%以上～100%未満
- ×：目標を達成できなかった。 90%未満

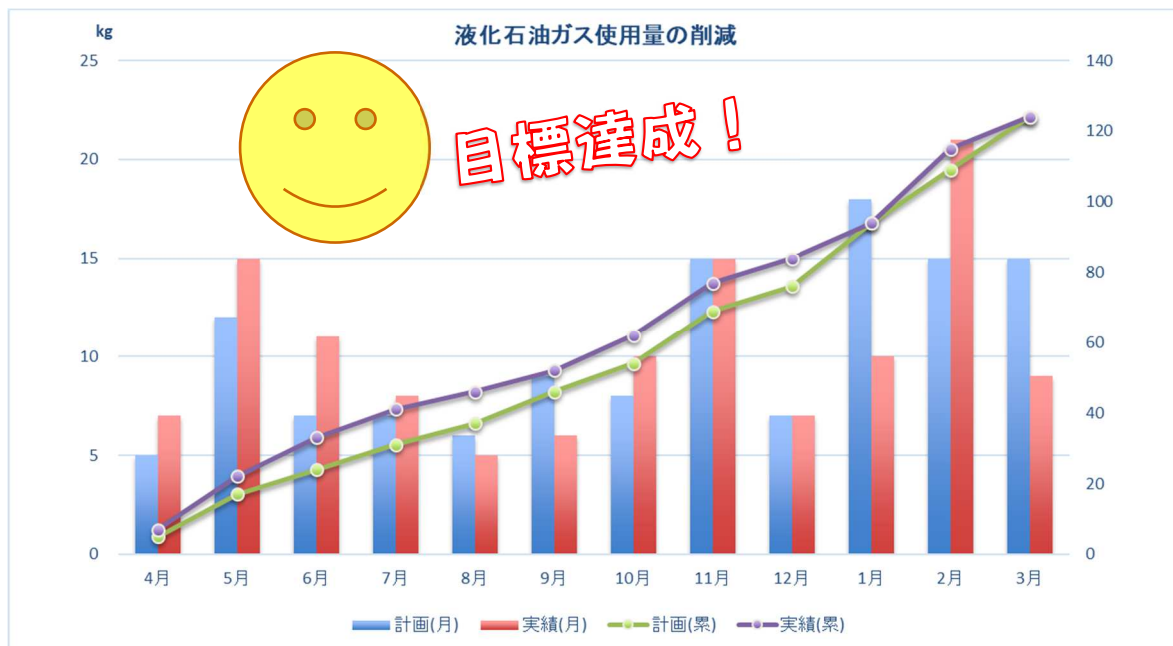
二酸化炭素排出量に係る各使用量の推移（全社）

① 電力使用量の推移



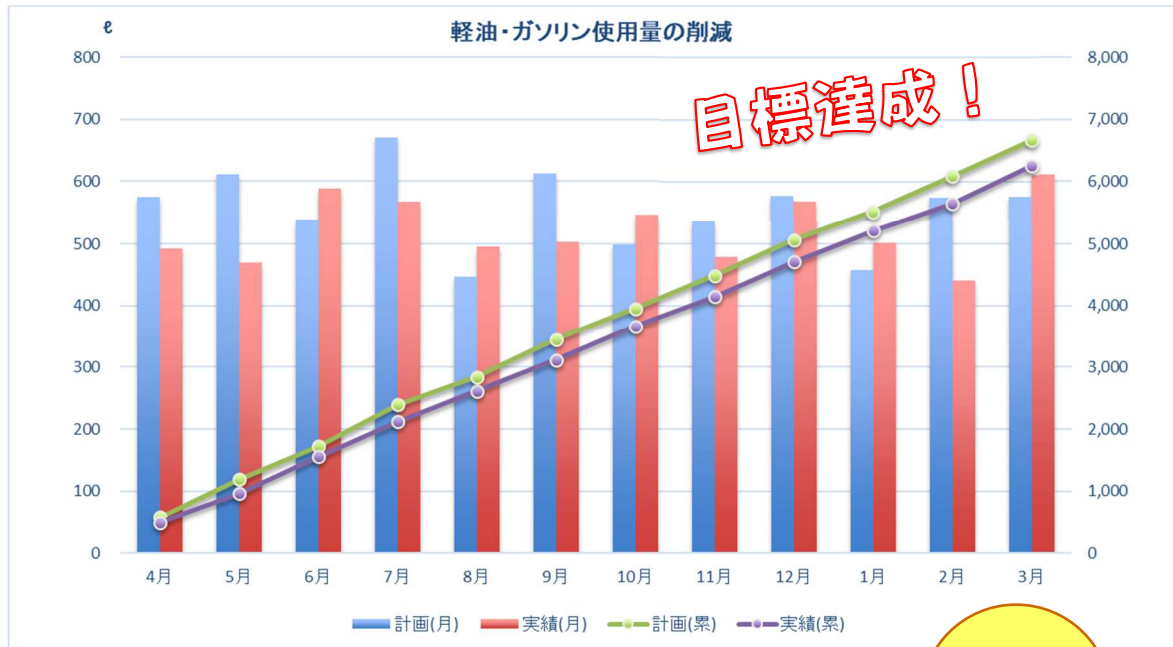
冬季の使用量増加により目標達成できず

② 液化石油ガス使用量の推移

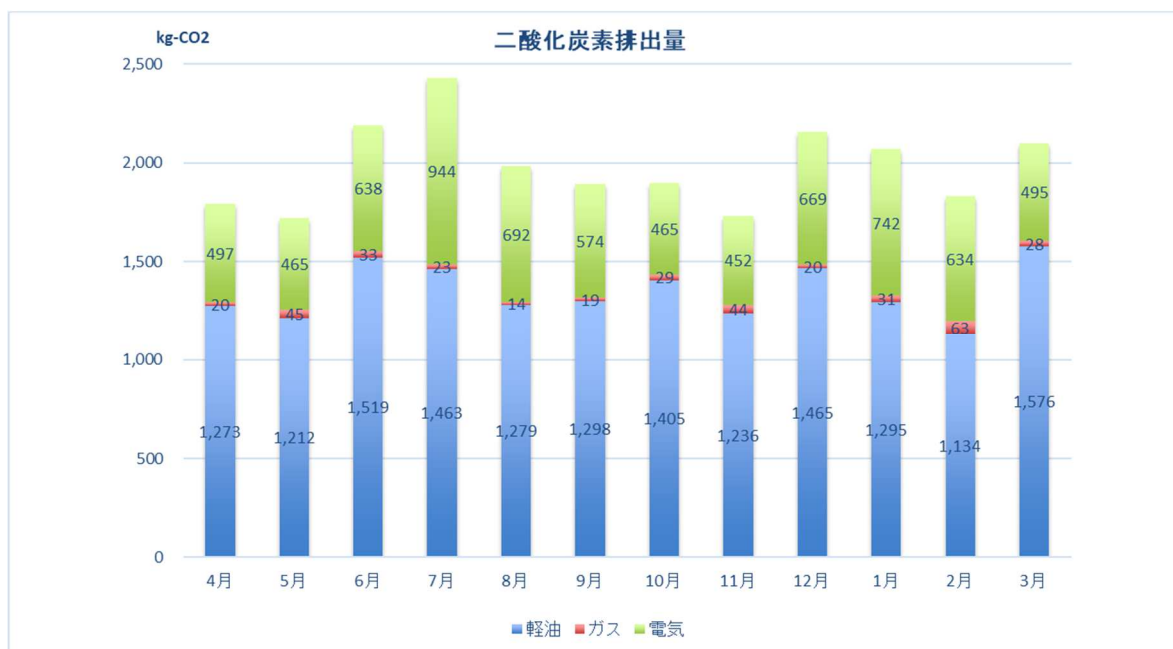


目標達成!

③ 軽油・ガソリン使用量の推移





(ア) 全社項目別二酸化炭素排出量と割合



8. 環境経営計画とSDGs目標の取組結果と評価


今期4月から3月までの12ヶ月間の取組結果と評価は以下の通りです。


環境目標	取組項目	評価
二酸化炭素排出量の削減	不使用時、不必要箇所の消灯	○ PCの消し忘れが時々あった。再度消し忘れがないように声掛けをすることができた。
	空調の適温化（夏季：28℃、冬季：20℃）	△ 夏季は設定温度が守れていたが、冬季は守れていない日が多かった。
	空調機のフィルターの定期的な清掃・交換など、適正に管理する	○ 簡易清掃は毎週出来ていた。よく使うエアコンはフィルターも定期的に清掃できていた。
	ガス給湯器の使用は必要時のみに努める。	◎ 月によりガスの使用量に偏りはあるが、目標は達成できている。
	エコドライブ10を心がけた運転をする	○ 取組んでいる。今後も継続していく。
	各使用量の実績管理を行い、その推移を記録・分析する	◎ よく取組んでいる。今後も継続していく。
SDGs達成目標	 	


環境目標	取組項目	評価
受託産業廃棄物における再資源化の推進	受託した廃プラスチック類を分別選別し、再資源化に努める	◎ よく取組んでいる。今後も継続して分別選別をおこなう。
一般廃棄物排出量の削減	発生したごみは可能な限り、圧縮等を行い、減容する	○ 圧縮し廃棄物量の平準化をおこなっている。今後も継続していく。
	無駄な印刷物の削減	○ 取組んでいる。今後も継続していく。
	3S（整理整頓清掃）活動の実施	◎ 定めた清掃日を守れている。今後も継続していく。
一般廃棄物における再資源化の推進	紙、ダンボール等の資源ごみはリサイクルセンターへ持ち込む	◎ 紙は資源ごみとして回収してもらい、ダンボールはリサイクルセンターへ持込んでいる。今後も継続していく。
SDGs達成目標	  	

【評価】

◎：よくできた ○：まあまあできた △：あまりできなかった ×：まったくできなかった

環境目標	取組項目	評価
水使用量の削減	手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する	◎ 節水することができている。今後も継続して節水を心掛けていく。
SDGs達成目標		

環境目標	取組項目	評価
製品への環境配慮	製品ラベルを読み込むと添付文書が閲覧できるよう電子化する	○ 添付文書の電子化を行えた。今後も進めていく。
SDGs達成目標		

環境目標	取組項目	評価
化学物質の適正管理	収集したSDSをもとに化学物質使用量を把握する。	○ 主な化学物質は、エチレンジアミン四酢酸で全体の約65.9%である。
SDGs達成目標		

環境目標	取組項目	評価
優良産廃処理業者認定制度における事業の透明化	情報の公表を行う	◎ 更新期日を守り、情報の更新ができている。

【評価】

◎：よくできた ○：まあまあできた △：あまりできなかった ×：まったくできなかった

その他の取り組み

- ・ 昼休憩にパワーナップ推奨
- ・ 産休、育休と取りやすい職場に。社内環境の整備（ベビーサークルの設置）



9. 次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

次の取組を継続して行い、省エネルギーに取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努める。

- ・空調の適温化（冷房28℃程度、暖房20℃程度）を徹底する
- ・空調機のフィルターの定期的な清掃・交換など、適正に管理する
- ・窓に断熱シート（プチプチマットなど）を貼付け、熱や寒さを防ぐ
- ・昼間の太陽光や人の存在を感知し、必要時のみ点灯する設備を採用する
- ・LED照明を採用する（中・長期目標）
- ・運搬車両の適正な車輛整備など、エコドライブ10を心がけた運転
- ・各使用量の実績管理を行い、その推移を記録・分析する

(2) 受託産業廃棄物における再資源化の推進

目標は達成できたが、次期は次の取組を継続して行い、さらに推進を図る。

- ・SDGsの目標やターゲットを意識して、中長期の経営計画を策定する

(3) 一般廃棄物排出量の削減

- ・社内LAN、データベースなどの利用による文書の電子化に取り組む
- ・再使用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用する

(4) 一般廃棄物における再資源化の推進

- ・再使用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用する
- ・無駄な印刷物の削減

(5) 水使用量の削減

適正量の使用に努める。

- ・水道配管からの漏水を定期的に点検する
- ・手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行する

(6) 化学物質の適正管理

収集したSDSをもとに、化学物質の適正管理を目指す。

- ・有害物質のタンク、パイプ類は漏洩、拡散などを防止できる仕組にする
- ・化学物質の安全性に関する情報伝達のため、SDSにより管理する

(7) 製品への環境配慮

当社が生産・販売・提供する製品の環境配慮に努める。

- ・製品包装、発送梱包の簡易化を進める

(8) 情報提供

優良産廃処理業者認定制度における事業の透明性に係る基準に基づき情報の公表を行う。

- ・産廃情報ネットの産廃処理業者検索「さんばいくん」にて情報の公表をし、定期更新を行う
- ・更新期日チェックシートを用いて、更新し忘れを防ぐ

10. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

遵守評価日：2022年3月25日

適用される法令	適用される事項（施設・物質・事業活動）	遵守評価
環境基本法	事業活動全般	○
自動車NOx・PM法	対策地域内での所有・運行（トラック1台、バン3台）	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品の管理、簡易点検 （業務用エアコン、業務用冷蔵庫）	○
騒音規制法	破砕機（原動機の定格出力7.5KW）	○
振動規制法	破砕機（原動機の定格出力7.5KW）	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物中間処理・収集運搬業の許可（許可証の管理）	○
	マニフェストの管理	○
	特別管理産業廃棄物管理責任者を置く	○
家電リサイクル法	廃棄時に再資源化となるように処理（エアコン、洗濯機、冷蔵庫）	事例なし
小型家電リサイクル法	廃棄時に再資源化となるように処理（携帯電話、デジタルカメラ）	事例なし
自動車リサイクル法	廃棄時に再資源化となるように処理（トラック1台、バン3台）	事例なし
グリーン購入法	環境物品などの選択、購入	○
P R T R 法	製品安全データシートを適切に提供する。 ※人員21名未満であり、化学物質使用量が少ないため、届出の規制は受けない。	○
市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例（名古屋市）	自動車のアイドリングストップ	○
産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例（名古屋市）	廃棄物の適正な処理、発生の抑制、減量に努める	○
名古屋市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例	公害の防止、環境への負荷も低減、化学物質の適正管理	○

<違反、訴訟等の有無>

環境関連法規等の遵守評価の結果により、遵守していることを確認しました。

また、過去3年間において、違反、訴訟等はありません。

1 1 . 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

環境経営目標に社員全体で取り組み、数値目標は概ね達成出来た一年であったが、二酸化炭素排出量の削減及び一般産業廃棄物の削減は達成出来なかった。しかし SDGs 目標を絡めた環境経営計画を取り組んだことで SDGs の意識が高まったことは良かった。

会社の状況は、3年目となるコロナ禍で、貴金属リサイクルの分野を除いて業績の悪化は変わらない。一年を通して新商品の開発、医療機器のクラスUPの為の準備期間として有意義な一年であったと言える。

(2) 見直しの結果

二酸化炭素排出量（電気使用量）削減の項目で目標未達成となったが、設備の老朽化による、想定外の改修に伴う約2か月間の防犯対策のための夜間照明等が要因だと考えられる。

一般廃棄物削減の項目も目標未達成であったが、自社加工製品の受注増により、仕入梱包資材の増加、製品加工後の残材の増加が要因であった。

達成が厳しい環境経営目標の項目は基準値の現状維持を目標とする。

以上を踏まえて、経過観察が必要であると判断し環境経営方針の見直しの必要性はなく、環境経営目標・計画、実地体制も変更しない。